

栄光園だより
第119号
2020年4月30日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
振込口座 01930-2-20748
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

神の光が注ぐ園



チャブレン(評議員) 齋藤 真行

2019年度をもって、別府不老町教会の牧師、また栄光園の評議員・チャブレンを辞することとなりました。これまで栄光園で数多くの方々との出会い、素晴らしい交流の時間が与えられたことを心より感謝致します。

これまで栄光園で様々な働きを担わせて頂くなかで、栄光園の理念は「託されている子どもたちを愛すること」で、神の栄光をあらわす園である」と考えてきました。そこにいる人々が「一生懸命子どもを愛する」ことが第一だ、とし最近、これは認識としては半分に過ぎなかった、ということを感じています。

「栄光園」のより深い意味は、そこに一人ひとりが愛を示すよりも以前に、「神の愛の光がいつも注がれている園」の意味ではないか、と思わせられます。そこにどんな困難が生じて、どうい



わけか立ち上がって歩んでいくことができるのは、この光が絶えず照っているからではないかと。

およそ地球上のあらゆる生物のエネルギーの源は太陽であると言われる。私たちが肉や野菜などを食べて生きているのも、それらの動植物が太陽のエネルギーを吸収し、糖質やたんぱく質などに交換しているからです。たとえ私たちがそのことにまったく気づかなくて

も、この事実が変わりはありません。同じように、神の愛の光が太陽のようにいつも注がれているから、子どもたちは知らず知らずのうちにも成長していきます。私たちが抱えている問題や困難も、この愛の光に照らされているから、時間と共に解決されていきます。

栄光園の施設長や職員の方々は、人としては解決し難い困難に日々取り組まれています。人間が成長するということは、生易しいことでなく、本当に命がけのことです。頭を抱えるような課題もまた、時に生じます。それでも、時間と共に子どもたちが立ち上がり、子どもを援助している方々も新しい道を見出して進んでいかれるお姿に接する時、命とはなんなのか、深く考えさせられるものです。

人としての知恵や力が尽きて扉が閉ざされても、なお人生は終わらないのは、「偶然」という言葉では説明が付きません。そこに神の愛の光が注がれていて、神様が子どもたちの背中を押し、職員の方々の苦悩を支えておられるのを、魂のうちに感じます。「もう終わりだ」と思っても、生きる道が終わらない不思議は、きっと太陽のように暖かい愛が、知らないところで私たちを支えているからです。

私が理事や評議員などをつとめさせて頂いていた10年間の間に、最初に出会った子どもたちは涼々しい高校生や社会人になりました。そんな姿を見るために、栄光園につとめている一人ひと

りが日夜努力されています。子どもたちの善き将来のために労する方々から敬意を表すと共に、一緒に神様の光のなかを歩かせて頂いたことを改めて感謝致します。栄光園がこれからも、神の光が絶えず注がれ続け、人の愛の光が輝き続ける園として、子どもたちの成長を支えていかれることを、心よりお祈り申し上げます。

グレースホームの集い

栄光園を巣立った卒園生、栄光園を支援して下さる皆様、そして生活している子どもたちの集いとして「バーベキューのタベ」を例年8月に行ってまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、本年度は、**9月20日(日)17時より**園庭にて開催します。お気軽においでください。事前に電話をいただければ助かります。もちろん参加費は無料です。お志等も固く辞退させていただいております。

連絡先 栄光園 TEL.0977-23-2827 別府市南荘園町3組



新任者あいさつ

新しい職員をご紹介します。



児童養護施設
児童指導員
佐藤 桃佳

今年度より栄光園で児童指導員として働かせて頂きます。佐藤桃佳と申します。大学時代は、大分大学福祉健康科学部心理学コースで4年間心理学や福祉について学んできました。大学在学時に栄光園の見学・実習を経験させて頂く中で栄光園の雰囲気や温かさに魅力を感じて働きたいという思いが強くなり、栄光園に入職させて頂くことになりました。まだまだ未熟な点が多いですが子どもたちと信頼し合える関係を築きながら共に成長し合えるように精一杯頑張ります。これから宜しくお願い致します。



児童養護施設
児童指導員
吉村 綾香

4月から入職させて頂いていただきました吉村綾香と申します。大学在学中に見学させて頂いたとき、家庭的な温かい雰囲気と、子どもたちの明るい笑顔に魅力を感じました。私は、身体を動かすことが好きなので、子どもたちと元気に遊び、楽しい時間をたくさん過ごしたいと考えています。また、一人ひとりじっくり向き合い、子どもたちに信頼される養育者となるよう努力してまいります。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、元気な笑顔を大切に、子どもたちと共に成長していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



児童養護施設
保育士
中野町 将太

はじめまして、今年度より新規職員として入職しました中野町将太と申します。短期大学入学後の研修にて栄光園を見学させて頂いたとき、環境面で整っていることを感じ、自主実習をさせて頂いたことと、その実習の際に子どもと職員の間で日常の様子を見学させて頂いたとき、雰囲気の良さを知らずとも出来ました。

まだまだ未熟ではありますが、子どもたちの笑顔のために日々勉強を重ね、子どもたちの成長に負けないよう、自分自身も成長していきたいと思っております。これからよろしくお願いたします。



児童養護施設
看護師
広瀬 亜紀子

私は長年病院勤務のため、児童福祉施設の看護師勤務は初めてのことにあります。以前より乳幼児に関わる仕事に就いてみたい希望を抱いており、この度、御縁を頂けたことに嬉しさ反面、経験のない領域への不安が多々あります。自己研鑽に努め、培ってきた臨床経験も参考にしつつ、予防医療、発症時の看護などの医療的、医学的な観点からの関わりだけでなく子どもを育てる一つの家庭であることを認識し、皆様から教わりながら私自身も子どもと共に学び、子どもたち一人ひとりが心身ともに健全に成長できるよう、温かく見守れる看護に従事していきたいと思っております。宜しくお願い致します。



この季節に思う

新年度の幕開けは、新型コロナウイルスの世界的な蔓延にかく乱されてきました。

子どもたちにとっても休校が続き、喜びに満たされるはずの卒業式や入学式も簡素化されました。

少し前まで、春爛漫の春を謳歌することもなく迎えるこの季節を、誰も予測出来なかったことでしょう。しかしこの現状も、森羅万象の出来事が人間の力の及ばない必然の様に受け入れざるを得ない現象とも感じます。このことが世界の体制を変え、貧富の格差を広げ、生活しづらさ、生きづらさに繋がらない様に願います。そして今、この意味を問い新たな方向を考えて歩む賢さが求められている様に思います。

未来を担う子どもたちの養育環境に、希望の光が豊かに与えられることを切に願って止みません。

江口 敏一



乳児院
保育士
江川 遥

別府大学短期大学初等教育科から来ました、江川遥です。好きなことは食べること、泳ぐことです。そして、ねこが大好きです。高校生の頃から就職したいと思っていたこの園に就職できてとても嬉しく思います。仕事内容を覚えることに苦戦していますが、子どもたちの笑顔に、元氣とやる気をもらっています。良い保育士になれるよう、先輩方にたくさん質問をして、自分の力にしていきたいです。私も子どもたちに幸せな気持ちを抱えられるよう、毎日笑顔で頑張ります！



乳児院
保育士
中嶋 枝穂

豊後大野市より、念願の栄光園入職に感謝しております。中嶋です。子どもたちと一日一日を大切に過ごしていきたいです。



乳児院
保健師
衛藤 真弓

乳児院に配属になりました。別府の街並みと温泉が好きです。乳児院の職員として、子どもたちの未来のために、安全・安心で愛情溢れる環境をつくれるように、優しく笑顔で子どもたちに関わっていききたいと思っております。よろしくお願いたします。



乳児院
調理員等
森廣 恭子

この度、乳児院の調理員等で勤務させて頂いたことになりました。森廣恭子と申します。よろしくお願致します。児童福祉での勤務というのは初めてで、一昨年少のリス組の子どもたちを見た時はみんな同じように見えてしまっていて、それぞれ個人の違いがわかりづらかったのですが、ゾウ組になると、顔の表情や仕草に個性が出ていて、これが人間の成長なんだと、日々発見があります。

す。早く仕事に慣れるように頑張りますので、ご指導よろしくお願いいたします。



青山保育所
保育士
松本 真人

今年度から青山保育所で保育士をさせて頂きます。松本真人と申します。好きな食べ物はパスタです！多い時は週7で食べることもあります！学生の頃より目尻のシワが増えてきた23歳です。

これからたくさんの子どもたちと関わっていく中で、子どもたちの一番の理解者になれるよう、たくさんの思い出と一緒に作っていききたいと思っています。至らない点も多々あるとは思いますが、一生懸命頑張ります！よろしくお祈ります！！



野口保育所
保育士
坂本 聖子

子どもたち一人ひとりの個性を大切に、一緒に笑ったり喜んだり、気持ちを共有しながら、笑顔の溢れる保育をしていきたいと思っています。

また、保護者の皆様と共に、子どもの成長を喜びあいながら、一緒に子育てしていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。



野口保育所
保育士
加藤 麻恵

子どもたちと触れ合う毎日、これからどんな出会いや発見があるのか楽しみです。みんながすくすく成長していけるように関わりながら明るく元気いっぱい頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお祈りいたします。

児童養護施設

キャサリンホーム



ホーム長 宮崎 洋子

今年度は、小学生2名・中学生3名の男児5名で、新しいキャサリンホームがスタートしました。小学校2年生から中学校3年生と年齢の幅は広いですが、昨年度の顔ぶれと大きく変わらなかつたのも幸いして、新しく入所した児童や職員に対しても気持ち良く接したり、楽しく過ごすごとが出来ています。

5年目に入りホームで以前から取り組んでいる「性の勉強会」も軌道に乗り、定期的実施しています。子どもたちの知識を深めることができ、生活の中で距離が近くなれば離れたりする等の行動や、第2次性徴に対してどうしたら良いのかという嬉しい相談があつたりします。

今年度も引き続き一人ひとり個性豊かな子どもたちを尊重し、将来に向けて子どもたちをホーム職員一丸となつて支援していこうと考えております。

ウエストホーム



ホーム長 大野 将也

3月に2名の高校3年生がウエストホームから社会に旅立って行き、今年度は高校生3名、幼児1名と今までにないホーム編成となりました。

高校生と幼児の年齢差のあるホーム編成となりましたが、高校生の男の子がまるで弟のように優しく幼児の面倒を見る姿が見られるようになりました。子どもの年齢差が大きいことと、子どもの移動に

伴った職員の入替わりがあつたことで、これまでとは違ったホームカラーになりつつあります。

児童の権利を尊重し、「子どもを生活の主体者に」ということを念頭に置き、それぞれの子どもにあわせて、自立に向けた支援に力を入れて取り組んでいきます。

ムラカミホーム



ホーム長 土谷 聡一

前年度は幼児が多くいるホームでしたが、今年度のホーム異動により小学生3名、高校生2名の女児ホームとして生活していくことになりました。

小学生は年が近い事もあり楽しそうに一緒に時を過ごしています。また、高校生は小学生を可愛がってくれており、リビングでは皆で話をする事が多く、特に女児ホームのため話が尽きることはなくホーム全体が明るく感じられます。

職員も変わり新しいムラカミホームとして明るく、話が絶えないようなホームにしていきたいと考えています。

マツモトホーム



ホーム長 竹原 史雅

マツモトホームは、高校生2名、小学生1名、幼児2名の女児5名で今年度がスタートしました。

始まったばかりだというのに幼児2名のパワーに圧倒されている毎日です。子どもたちは、それぞれに心の傷を抱えています。私たち職員は、日々の生活の中で1人ひとりに目を向け安心して生活することが出来るように見守り、必要に応じて寄り添い、共感し、子どもたちと一緒に学んでいけたらと思います。

また、関係機関や医療機関とも連携をとりつつ、その子の成長過程に適した支援に取り組み、より良い成長をしていけるよう共に歩んでいきたいと思っています。

オゴウホーム



ホーム長 榎本 薫

新型コロナウイルスによる長い長い春休みを迎え、オゴウホームは女子児童5名、職員5名でのスタートとなりました。

一人ひとりが様々な課題を抱えている子どもたち。中には、注意されたことを何度も繰り返してしまう子どもや、「悲しい」「悔しい」などの気持ちが「怒り」でしか表現できず悩んでいる子どももいます。そんな子どもたちにとつてどのような支援が必要なのか試行錯誤している日々です。ただ問題と思われ行動だけを見るのではなく、まずは私たち職員が子どもたち一人ひとりの背景を理解し受け止めることを心がけ、そして、子ども自身としっかりと向き合い、時には寄り添いながら共に成長していけるようなホームを目指していきます。

ノマチホーム



ホーム長 藤本 一明

ノマチホームは、男子児童が生活する地域小規模ホームです。今年度は、高校生2名、中学生2名、小学生1名が在籍しています。これまでは、中高生中心のホームであり、自立に向けた取り組みを中心に行ってきましたが、小学生が新たに加わったことで、異年齢との関り方を学んでいくことも取り組みの一つとして加えることとなります。これまでにない新たな生活がスタートしています。

福祉・教育等の関係機関や、医療機関と

乳児院

新しい年度に向かつて

保育主任 本庄公多子

も連携をとりながら、年齢と成長過程にあった支援を行っていき、心身の健やかな成長を目指していきます。
これまでと同様に、地域の方々との関係を大切にしていきながら、地域の中で地域の一員として成長して行ってほしいと考えています。子どもたちや職員を見かけたら、気兼ねなく声を掛けていただければ幸いです。

グラウンドや通りの桜が満開になり、ついつい上ばかりを見てしまいます。
今一番の心配は新型コロナウイルスですが、いつものように自分たちにふりかかってくるか大変怖いですね。私たち職員も子どもたちが罹ってはいけないといつも以上に子どもの体調に気をつけ、施設内の消毒や手洗い、うがいなど励行し、職員自身の健康管理にも努めています。早く終息すると良いのですが…

さて、乳児院の子どもたちは、3月の終わりから4月の初めにかけて4人が退所し、それぞれ新しい生活を始めています。退所の日には、子どもも大人もみんなでお見送りをするのですが、元氣よく「ばいばい」と手を振っている子どもたちの横で、私たち職員は嬉しくもあり、寂しくもあり、なんとも複雑な気持ちでした。

また4月から職員も増え、新しい体制で「子どもたちの最善の利益」のためにできることは何かを考えると共に、子どもたちが健やかに成長できるよう、職員全員で連携を取り合いながら養育をしていきたいと思います。

子どもの成長と可能性は無量大



入所した生後間もない赤ちゃんは、日に顔がすっかり来て「今日は笑った」「今日は声を出した」など毎日のように変化をしていきます。そして「寝がえりができた」「お座りができた」「立った」と成長の様子を間近で見ることができるようにも乳児院ならではの成長があります。

1歳頃になると、歩くのもままならなかった子がだんだん歩くのも上手になっていき、遊びもダイナミックになっていきます。その間転んだり、ぶつかったりと小さなけがは日常茶飯事ですが、子どもたちの好奇心の強さはそれ以上で、自分でやると思った時には、少々痛くても泣かずに立ち向かっていきます。

また、お友だちや身近にいる保育者の真似をする姿もでてきて、いつの間にかできることが増えていくので、子どもたちの持っている力は本当にすごいなと感心させられます。



乳児院の子どもたちは、2歳を目途に次の生活の場所へ移っていきますが、著しい成長とこれから伸びていく可能性を次の養育者へ丁寧に引き継いでいくことが、私たちの役目であると思っています。子どもが安心して生活できるよう、養育者同士の連携を密にすることが大切だと思います。

青山保育所

おもちゃをべったんこ

保育士 尾原 亜紀

「おもちつき」に向けて、クラスで「餅つきごっこ」をしました。牛乳パックや段ボールで作った臼、ペットボトルで作った杵、小麦粉粘土のお餅を用意して準備万端。「べったんこ、それ、べったんこ」と歌いながら楽しそうに練習できました。お餅丸めの方も、上手でしたよ。保育士が作った鏡餅も真似して作る姿が見られました。

お餅つき当日は、エプロンと三角巾を身にまとい、やる気満々の子どもたち。子ども用の本物の杵はちよびり重く、「おもたい」と言う子もいましたが、ほとんどの子は1人でしっかり持ち、お餅がつきました。

お餅丸めもお手伝いのおばあちゃんたちに教えてもらいながら、上手にできました。途中であんこを入れたおもちを作ったり、つきたてのお餅を食べたりしましたよ。手や顔が白くなりましたが、楽しそうでした。給食では「黄粉餅・酢餅・砂糖醬油餅」も食べ、「おいしい」「またたべたい！」と美味しそうに頬張りながらお腹いっぱい食べていました。



鬼はそと 福はうち

保育士 平田 留美子

子どもたちは、「鬼のパンツ」や「豆まき」のうたを歌ったり、鬼の絵や新聞紙を使って豆まきごっこをしたりして遊びながら、節分の日待ちました。

当日は、節分のお話を聞いたり、節分クイズなどの催し物を見たりして楽しんでいたので、テラスで豆まきをする際に青鬼が登場すると、鬼を見た瞬間に大泣きする子どもたちでした。しかし、中には泣きながらも必死に豆を投げる勇敢なお友だちもいました。鬼が退散しても、不安な気持ちからしばらく周りをきよろきよろ見まわしていましたが、一息ついて給食を食べるころには、安心して節分ランチをお

いしそうに食べていました。



おやさい洗ったよ

保育士 薬師寺 良

2歳児のお友だちが、給食のシチューに入れるにんじんとじゃがいもを洗いました。「わたし、にんじんあらったよ」「にんじんのいろは、オレンジだね」「ぼくは、じゃがいもあらう」「みずつめたいね」と、お友だちとおしゃべりしながら、水で汚れをきれいに落としました。普段食べている野菜の色や形、重さを感じることができたのではないかと思います。調理される前の食材を知ること、食べ物への興味につながればよいなと思いました。「おうちにかえって、ママのおてつだいしたいな」というお友だちもいました。

ご家庭でも親子で楽しくお



話しながら料理をしたり、お手伝いしてもらったりするのもよいですね。

一日小学一年生

保育士 荒家 由妃

5歳児のお友だちは、南立石小学校に体験入学に行きました。小学校に着くと大きな門、大きな靴箱に授業のチャイム、そしてお兄ちゃんお姉ちゃんの姿にドキドキそわそわ、緊張気味の子どもたちでした。それでも机に座って自己紹介や自分の名前を書く練習をすると、お兄ちゃんお姉ちゃんと楽しそうに会話する姿が見られるようになりました。

ランドセルを背負わせてもらったり、鍵盤ハーモニカの演奏を聞いたり、いろんな体験ができました。子どもたちに感想を聞いてみると「緊張せんかったし楽しかった」「給食おいしいかな」「ランドセル何色？」と会話が弾み始め、かっこいい小学校一年生の姿を見て春に期待を持てたの

ではないかと思いました。

卒園式を終えて

園長 本庄 智宏

3月28日に卒園式を行いました。新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、場所の変更や保護者の人数制限など制限が多し中での卒園式でしたが、卒園する子どもたち一人ひとりに、しっかりと証書を渡すことができました。

式の最後には、バルーンリリースを行い、子どもたちや保護者の皆様にも喜んでいただけました。

卒園児はこれから幼稚園や小学校へ飛び立ちますが、どうかこれからもすくすくと育って欲しいなと思います。がんばれ21名の卒園児たち。

2020年度が始まりました。今年度は新しく8名のお友だちが加わり、計69名



のお友だちが毎日元気よく保育園で過ごしています。子どもたちには保育園が楽しいと思ってもらえるように、保護者の方には安心してお子さんを預けられるように努めて参ります。よろしくおねがいます。 青山保育所 職員一同

聖書の言葉

「自覚」が道を拓く

(ルカ23:34)

チャプレン 齋藤 真行

私たちは自分自身の課題について、自覚していないことが多くあります。他者から「あなたはこの点については、課題があると思う」と言われても、「そんなことはない」と一笑に付したり、「むしろ、そう見ているあなたの方がかえって問題だ」と逆に言ったりします。

これは子どもでもまったく同じで、大人の視点で子どもが重要な課題を背負っていると思われ、それについて指摘したり、改善を提案したりしても、子どももプライドが傷ついてよりかたくなになってしまったりもします。子どもであればなおさら、自分自身がどういった課題を持ち、どう乗り越えていけばよいのか、などを理解したり、想像したりすることも難しいです。

私たちはだれもが、自分自身の抱えている

課題についてはだれからも指摘されたくはないし、そんな課題など存在していないかのように考えたいものです。自分自身の課題に直面することはプライドが砕かれる痛みが伴うばかりか、「変化」を求められるため、私たちの自然本性の流れに逆らうのです。そのために、こういふことから可能な限り回避して見て見ぬふりをしようとしています。

しかし、それがどんな課題であれ、その課題をクリアしてよりよい人生を生きていくことができるのは、少なくともその課題が事実そこにあることを認識して、「自覚」することができる人だけです。精神医学の世界では患者の「病識」自分が病気であることの自覚」の有無が治療上非常に重要で、病識がないか、極めて乏しい場合は治療が困難なもの

となることが多いとされます。病識がなければ、なぜ自分が治療を受ける必要があるかさえも、よくわからないからです。

私たちが自分の課題ということについて「自覚」がないと、どんなに人生の歩みがよくなる方向に向かっていても、それについて改善しようとか、成長して手放していくことは決して考えません。そのため、誰かに課題を指摘されても、「なぜこんな悪口を言われなくてはならないのか」としか、受けとめられなかったりします。

イエス・キリストが十字架につけられたとき、「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ23:34)と祈ったとあります。私たちは自分で何をしているのか知らないまま、人生の道を曲げていつてしまします。「聖書は鏡である」と言われます。聖書を読むことで、私たちは自分いどんな課題があるかを「自覚」して、正道に立ち戻り、道を拓くことができるのです。

野口保育所

新しい年度が始まりました。今年度も資質向上を目指し、子どもたちが安全で楽しく過ごせるように職員一同力を合わせて頑張っていきたいと思えます。今年度もよろしくお願い致します。

少しずつですが、前年度の2月からの行事の様子をお伝えします。

主任保育士 末吉 佳奈

豆まき

2月3日は節分。今年も鬼をやっつける季節がきました。今回は、5歳児が豆から生まれた豆太郎や福の神になりきり担当保育士と一緒にクイズを出しました。

園庭での豆まきでは、泣いてしまう子どもや楽しくてにこにこの子どもなど様々な表情が見られました。

職員が扮した鬼に「鬼は、そと！」と豆をたくさん投げ、今年も体の中にある鬼をみんなまで退治することが出来ました。

保育参観

今年度最後の保育参観がありました。各クラスで雛人形の制作やお店屋さんごっこ、小麦粉粘土やお家の人と一緒に凧あげもしました。お家の人と一緒に子どもたちはとても喜び、楽しんでいました。保護者の方々には、この一年の成長を見てもらえたのではないのでしょうか。一年間様々な点でご協力いただきありがとうございます。



ひな祭り会

3月3日には、ひな祭り会をしました。担当保育士と5歳児が各クラスのお友だちにインタビュールし、自分たちの作った雛人形を紹介してもらいました。子どもたちも作った雛人形いっぱいのお部屋は、とても華やかでした。



お別れ会

お別れ会では、卒園児がみんなの前でインタビュールを受け、はきはきと大きな声で答えていました。また、今年は、司会者がお家の方からのメッセージを紹介しました。



メッセージを聞きながら子どもたちの成長を感じ、職員は皆感動してウルツとなりました。給食は、全クラスでいただき、卒園児は好きなクラスのお友だちの輪の中に入り一緒に食べて嬉しそうでした。

お別れ遠足

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、距離や場所を考慮した遠足になりました。当日は、天気にも恵まれ、一年間一緒に過ごした友だちや保育士と一緒に近くの公園でたくさん遊んだり、お弁当を食べたりして、子どもたちにとって楽しい思い出が出来たようでした。



卒園式

今年度は感染防止対策をしっかりと行い、ご家庭のご協力も得て一家族保護者一名のみの参加の規模を縮小した卒園式となりました。新型コロナウイルス感染拡大の中、卒園式を行うことが出来、私たち職員もほっとしています。



12名の子どもたちが元気いっぱい野口保育所を巣立っていきましました。子どもたちが、小学校や幼稚園で元気に頑張ってくれることを願って応援したいと思います。

研修を受けて

工藤 直子

2019年度に社会福祉施設長資格認定講習課程を受けました。

1年間を通して社会福祉施設に必要な科目を受講し、またスクーリングを受け様々な意見交換をし、自分自身これからの施設長として、また、法人の一施設の保育所としてどうしていかなければいけないかなどを学びました。

人として施設長として保育所として、向上していきたいと思っています。

地域支援活動 集いの場くるみ

ポッチャを体験しました！

1月25日、重度障がい者センターの方のご協力により、センターの体育館で障がい者スポーツポッチャを体験させていただきました。



ルールを説明していただきながらゲームを進めてまいりましたが、相手チームに勝つために作戦を立てたり、ボールに回転をかけたりと、なかなか奥が深いスポーツだと感じました。子どもたちにとっても面白い競技だったようで皆集中してポッチャに取り組んでいました。今後も定期的にポッチャを体験できる機会を設けていきたいと考えております。

原点回帰

新型コロナウイルスの感染拡大の様子を鑑み、大都市への一極集中の危険性を感じずにはいられません。人と人の安全な距離(ソーシャルディスタンス)をとることが求められていますが、それがなかなか難しい状況です。

また、マスクなどの日用品においても、以前は日本国内で作られていたものが、安い労働力を求めて海外に製造拠点を移していき国内の製造業はすたれていきました。今回の新型コロナウイルスの問題で日本がこれほどまでに危機に弱い国だったのかと再確認させられました。

グローバル化が進み、生活に必要な大部分の物が海外で作られ輸入され私たちの生活を支えてくれているということに改めて気づかされました。これから私たちはどの方向に進むべきなのでしょう。経済重視で安い品物や労働力を求めて海外に出ていくのか、それとも自分たちの足元を固め、どんな状況においても生活していくことができる強い社会を構築していくのか。もちろん、私は後者の方が人間らしい生活ができるのではないかと考えます。

私が生まれ育った昭和30~40年代は物も今ほど十分ではなく、必要な物は工夫して作っていました。物を大切に、様々な物に形を変え最後まで使い切っていました。近年起きている地震・台風・水害など災害の際、また今回のようなマスク不足などにおいても、まずは身のまわりの物を利用し工夫して作り出していく知恵が必要になってきているのではないのでしょうか。生きていくうえでの知恵を生活の中で学びとり、たくましく生きていってほしいと願うばかりです。物のない時代を生き抜いてきた先人たちの知恵を今こそ生かしていく時なのではないのでしょうか。知恵を受け継ぎそして次の世代に残していく。そんな取り組みが豊かな未来を、強い社会を築いていくのではないかと思います。

原田 康子

防災について学びました

2月8日、別府市防災危機管理課の職員の方においでいただき防災について学ぶことができました。被災したとき役立つものとして、様々なものがありますが、まずは食器、そして、移動する時に足を怪我しないためのスリッパ、雨が降った時のカップなど様々なものがあります。今回は、紙皿を作りましたが、新聞紙やごみ袋など身近にあるもので生活に必要なものを応急的に作ることもできます。みんなの創造力をフル活用していろいろなものを作ってみませんか？



また、「防災かるた」や「防災クイズ」で防災について学びました。地震が起きた時どこに逃げたらいい？の答えは、意外にも「ソリンスタンド」でした。もしものことを想定しながら考えて行くことの大切さを大いに感じました。いざという時に、自分の命を守る知識はしっかりと子どもたちに伝えておきたいものですね。どんな状況でも生き抜いていくサバイバル術を身に付けていってほしいものです。

地域支援担当 原田 康子

今後のくるみの活動について

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3・4月に予定しておりました活動は、中止となりました。

養護施設の子どもたちにとっては、住居となる施設ですので、施設としても万全を期さなければいけない状況です。施設で働く私たち職員も感染しないよう自身の生活でも自粛が求められております。予防薬や治療薬が開発され、ウイルスの特性などが分かってくれば、この脅威も薄れていくでしょうが、早く薬の開発が進むことを願うばかりです。

最終し、活動が再開できることを願っております。

2020年1月~4月1日 社会福祉法人 栄光園 職員の採用・退職・異動

新規採用

- 〈児童養護施設〉
- 佐藤 桃佳 (児童指導員)
- 吉村 綾香 (児童指導員)
- 中野町 将太 (保育士)
- 廣瀬 亜紀子 (看護師)

〈乳児院〉

- 江川 遥 (保育士)
- 中嶋 枝穂 (保育士)
- 衛藤 真弓 (保健師)
- 森廣 恭子 (調理員等)
- 〈青山保育所〉
- 松本 真人 (保育士)
- 〈野口保育所〉
- 坂本 聖子 (保育士)
- 加藤 麻恵 (保育士)

異動

- 〈乳児院〉
- 有永 奈津美 (保育士)
- 芝崎 弘美 (看護師)
- 〈野口保育所〉
- 帆秋 堅太 (保育士)

退職

- 〈乳児院〉
- 勝見 裕妃 (保育士)
- 原田 聖子 (栄養士)
- 〈青山保育所〉
- 永木 一枝 (保育士)
- 西 美映 (保育士)
- 沖村 美和 (保育士)
- 大石 富子 (子育て支援員)
- 〈野口保育所〉
- 服部 優子 (保育士)



※採用、異動は全て2020年4月1日付

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

児童養護施設の子どものための進学等を重点的に支援する目的で始めた「自立進学資金(栄光園ファミリークラブ)」の枠は上級学校への進学により社会で活躍できる領域を格段に広げる重要なアフターケアだと考えております。現在当園でも中高生が児童の6割を占めるようになりました。どうか子どもたちの未来にお力をお貸しく下さい。よろしくお願いいたします。

栄光園をお支えいただいております皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお願いいたします。

【2020年1月1日～2020年3月31日(休)】

賛助金

- 安部道人様 大分市
- 岩田哲也様 大分市
- 太田佳子様 浜松市
- 小郷晶子様 別府市
- 川村隼秋様 熊本市
- 首藤和子様 熊本市
- 真愛幼稚園様 別府市
- 立花旦子様 大分市
- 田原明紀様 白杵市
- 永尾福康様 別府市
- 日本基督教団大分教会様 大分市
- 日本基督教団門司大里教会様 北九州市
- 日本基督教団別府野口教会様 別府市
- 日本基督教団福岡中部教会様 福岡市
- 平野八郎・紀美代様 別府市
- 別府不老町教会様 別府市

一般寄付

- 帆足和生様 別府市
- 宮沢淑子様 大分市
- 矢永尚士様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市
- 愛隣幼稚園様 大分市
- いろは商事株式会社様 別府市
- 川本順平様 別府市
- 匿名様 別府市
- 別府教会様 別府市
- 豊和銀行従業員組合様 大分市

自立進学資金

- 安東秀典様 大分市
- 梶原康弘様 大分市
- くろーは薬局様 別府市
- 堤峰子様 国東市
- 平川順子様 別府市

特別物品寄付

- 自転車 J A I F A様
- イチゴジャム アオハタ(株)様
- 新一年生鉛筆 明石文昭堂様
- 栗甘露煮 えひめ中央農業協同組合様
- 雑貨・服 大分合同新聞別保プレスセンター様
- ボンカレーGRANDベジタブル 大塚食品(株)様
- 汁なし坦々麺のたれ オタフクソース(株)様
- 白菜5ヶ 甲斐尚臣様
- 恵方巻き・ちらしずし
- 割烹鮎「幸喜屋」河野智幸・和江様
- お話サラちゃん(人形)等 (株)エスプリライン様
- テトラみかんいよかんジュース (株)えひめ飲料様
- ちびっ子タコスライス (株)沖縄ホームメル様
- 抜萃のつづり (株)熊平製作所様
- タオル・カバン・歯ブラシポーチ (株)ジェイ・ストーム様
- フルーツゼリー (株)マルミツサンヨー様
- 絵本・カルピス (株)カルピス
- カルピスひな祭りプレゼント事務局様
- 野菜 河野篤・小谷志郎様
- ほうれん草・白菜・プリン・雑貨 川本順平様

招待・奉仕

- 食パン6本 銀座に志かわ17号店大明野店様
- パン ココロト様
- タオル・砂場セット 後藤正巳様
- 衣類・ぬいぐるみ 斉藤咲代子様
- カルピス 社会福祉法人中央共同募金会様
- カレンダー MR.JAC KDEADWYLER
- お菓子 ダイヤモンドグループ(株)様
- ふり缶 長昌寺 今井英之様
- お菓子 大洋食品(株)様
- 銀座カリー中辛 デジマ(株)様
- 靴乾燥機 匿名様
- マスク 匿名様
- 葱 匿名様
- みかん缶 日興食品(株)様
- 米・白菜・高菜 二宮篤様
- 椎茸・卵・野菜 二宮洋典(株)九州錦運輸様
- シーチキンチキン はごろもフーズ(株)様
- 小学1年生入学祝 別府中央ライオンズクラブ様
- サブ煮缶 マルハニチロ(株)様
- カンパン 南荘園町自治会様
- 衣類 宮崎京治様
- タオル 村瀬久美子様
- 衣類・ぬいぐるみ 山田平司様
- お菓子 (有)ヴィーナスギャラリー別府様
- 服 (有)トス・カンパニー様
- 小中学習ボランティア
- 安東秀典・井上せつ子・山口香様
- 英会話クラブ S B I子ども希望財団様
- ピアノレッスン 奥山靖子様
- スピードラーニング A P U学生エギー様
- 児童の散髪 Kヘアー様
- 金曜学校 齊藤真行・庄司宣充・吉武二郎様
- スポーツボランティア ティム・ディック様
- ハンドマッサージ 三浦・北山・平川様
- 集いの場くるみ防災訓練 南荘園町自治会様
- 集いの場くるみボッチャ体験 国立重度障害者センター様

賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割可。
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

編集後記

これまで栄光園だよりの「聖書の言葉」の執筆やより良い養育のための職員研修の講師をお引き受けいただいております。た齋藤真行牧師が、転勤のため別府の地を去ることとなりました。言葉の力、言葉の大切さを教えていただきました。ありがとうございました。新天地での活躍をお祈り致しております。

新型コロナウイルス感染拡大で暗いニュースが報道される毎日です。外出自粛要請、緊急事態宣言が出されるなど、日常の普通の生活を送ることがままならない状況です。日常生活を普通に過ごせることがどれほどありがたいことなのかを肌で感じております。「明けぬい夜はない」きっと明るい朝がやってきます。そのためにも今は忍耐の時です。明るい未来のために…。(原田)